

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

3頁 聖書講座「信徒」伊従信子

6～7頁 川村信三師 講演(続編)

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
京都教区時報編集室
TEL 075-211-3468
FAX 075-211-4345

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601

京都の大殉教

京都教区司教

パウロ大塚喜直

この人々は、キリスト時代に、禁教令や迫害がなかったら、ごく普通の庶民として平和な生涯を送った人たちです。ラテン語の殉教とは「証しする」という意味です。殉教者が証しするのは自分の人間的な強さではありません

ん。かれらは命をかけて神さまの愛を選ぶことで、神さまの愛のすばらしさを証明したのです。わたしたちは何かを自分が選び取ることで、そのもののすばらしさを明らかにすることができます。人が大切なものの価値あるものを選ぶとき、その人もすばらしい人と言えます。わたしたちの人生にはつらく苦しいことがあります。楽になるためではなく、殉教者のように、神さまの愛によって乗り越え

ていく力を祈ります。鴨川の河原で27本の十字架に連なった52名の殉教者たちの声に耳をかたむけ、勇気をもって現代の人々に神さまの愛に信頼して生きる希望をつけさせましょう。

(京都司教区発行・紙芝居と絵本『京都の大殉教—27本の十字架』はじめのことばより引用。)



中山正実 作 エッチング画 白柳枢機卿 提供

10
2008

京都の大殉教巡礼会

河原町三条の河原町教会に集まつて、元和キリスト教の地碑を通り堀川四条近くのキリスト教文化資料館まで約3時間、今年は4、5、6、7、9、10月第4土曜日に巡礼を行い、毎回数十名の参加があります。昨年からこれまで累計で300名を超えていました。

この巡礼は、昨年京都の52名殉教者の列福が決定したことを契機に、京都キリスト教研究会とキリスト教文化資料館が共催で始め、今年は教区の列福記念事業特別委員会が主催していますが、案内、お世話などは昨年に引き続いて同じメンバーで進めています。

河原町教会、都の聖母小聖堂

河原町教会の地下に、明治の初め、東山將軍塚から発掘された「都の聖母」像を記念して作られた小聖堂があります。そこで、出発のお祈りをします。

元和キリスト教の地碑

1619年に京都の大殉教の52名が処刑された場所です。鴨川沿いの川端通り大仏正面（六条あたり）に、1994年に有志の手立てられました。（建設経緯につ

いては、下記の記事を参照して下さい。）

南蛮寺跡

キリスト教に対する好意的であつた織田信長に許され、当時目を引く3階建ての教会が建てされました。この聖堂は1576年献堂され、ミサが行われました。

本能寺跡

織田信長が襲われた場所です。南蛮寺の周辺にまで、そのときの騒乱の声が届いたと当時の宣教師フロイスの記録にあります。

日本最初の西洋式病院の跡

京都四条病院の外壁に顯彰版があります。この辺りに宣教師たちが教会、修道院、病院を建て、為政者の手が及ばない貧しい病人たちを手厚く治療・保護しました。

日本二十六聖人発祥の地

最初はキリスト教に好意的であった秀吉は、この地の妙満寺跡の広大な敷地を与えましたが、後にここを中心として活動した人たちを捕らえ、長崎で処刑しました。

キリスト教文化資料館

当時建設された教会・修道院跡に、フランスの家があり、その一角を使ってキリスト教の遺物、資料などを常設展示しています。

（編集部）

元和キリスト教の碑建立 —川端通り正面橋の歩道—

(1994年9月号を再掲)



特報

神の僕188名の内52名は1619年10月6日に六条近くの河原で、將軍秀忠の氣まぐれな死刑命令で、火あぶりの刑で生命を神に捧げた。神の僕と殉教者の候補者とのことで、京の大福者の候補者とのことで、京都の市民は申すに及ばず、京都の信者にとって大きな喜び感謝である。

碑の建立にあたっては10近くの年月を要した。川は国に、土手は府に、道路は市の管轄にあり手続きは複雑だった。尚、この京の大殉教についてよりよく知つて頂く為、結城了悟著「京都の大殉教」の小冊子を是非読んで頂きたい。

公共の地に建てられた碑である為、宗教行事は固く禁じられており、歴史的な記念碑であるという事になっている。

この目に見える碑の建立を機会に、京都の信者が一層元和キリスト教殉教者と親しみを持ち、一日も早く殉教者達が福者の位に叙せられる事を祈つてほしいと田中健一司教は願つている。

加えて地元3方、田中健一司教によつて、建立された碑は祝別された。参加したのは諸般の事情で数名の教会関係者のみでした。

94年7月26日夕

信
徒

伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィイ）

A black and white portrait of a young person with dark, shoulder-length hair. They are wearing a light-colored, possibly grey or white, ribbed sweater over a collared shirt. The background is plain and light.

2000年

ストそのものとなつたのです。恐れつつも喜びなさい。わたしたちはキリストとなつてゐるのです」と聖アウグスティヌスは非常に力強い言葉を残している。「神の靈によつて導かれるものはみな、神の子であり：神の相続人、しかもキリストと共同の相続人なのである」（ガラ4・5-7）。信徒の尊厳は、この世の業績・名誉・成功をはるかに越えていることを現代社会においてしつかりとらえることは重要である。第三に聖靈の塗油によつて聖なる神殿となる。「わ

感謝の祭儀（ミサ）において実現され、生き生きと持続されいく。こうして各自は教会の一員として、キリストの3つの使命（祭司職、預言職、王職）に参与する。

信徒の祭司的役割とは、司祭の代わりに何かをすることではない。日々の生活の中で、自分自身を人々の救いのためにささげ、祈ることである。イエスがご聖体を設定されたのは、自分を常にいにえとしてささげ続けるためであつた。イエスが切に願つたいけ

に集まり、そこで再現されるキリストの十字架のいけにえに合わせて1週間の日々をささげるとき、生活の日常の信徒の小さな祈り、生活のそれぞれの断片はキリストのいけにえの中に取り込まれ、世界を救う力ある祈りとなる。こうして信徒はキリストのあがないの業に参与し、福音宣教を担っている。

その姿を3つの側面から見ると、第1は洗礼によって神の子となる。「だれでも水と靈とよって生まれなければ、神の国に入るることはできない」（ヨハネ3・5）とはっきりとイエスは言われた。第2はキリストとその体に結ばれる。」「わたしたちは、単にキリスト

たしたちとあなたがたとをキリストに固く結び付け、わたしたちに油を注いでくださったのは、神です。神はまた、わたしたちに証印を押して、保証としてわたしたちの心に“靈”を与えてくださいました」(IIコリント1・21)。この靈を受けたことによって、わたし

にえに信徒はミサにおいて参与する。それゆえ、キリストとのつながりによって生きている者にとって、自分がしていることで価値のないもの、無意味なものは何もない。平凡な日常生活の中で、其々が与えられた場において自分自身をいにえとしてささげていく。

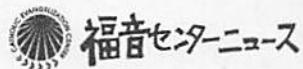
キリスト者は受肉されたおん子の
あがないの業に参与し、其々の生
活の場でキリストの愛を生き生き
と証していく。色々な役職の中で
一番秀でているのは愛の業であ
る。自分ではなく相手を大切にす
るその行為の価値は愛の深さにあ
る。

卷之三

の家となつてゐる。

気の苦痛・不安をささげ、事務員

講演会「でうすのご奉公にすすむべきこと」質疑応答



5月に行われました川村信三師による講演会の質疑応答（要約）の第2回目です。

なお、講演要旨も当誌に掲載されていますので併せてお読みください。

**質問5、すばらしい信仰の種がまかれたのに、どうして禁教令が出されなければならなかったのでしょうか。
何か宣教手段に問題があったのではないのでしょうか。**

回答 16世紀当時のヨーロッパの宣教師は他宗教を認めません。他の宗教は全部偶像崇拜です。偶像だから壊して回ったのです。神社仏閣などを壊したというキリストンの記録が京都にもあります。しかし宣教師が壊すのではなく、説教を聞いていた信徒たちが壊したという例が沢山あります。それはやはり許しがたいです。わたしたちはそれを反省しなければいけない。ただし、では何でもいいのかと言うとそんなものではないですね。よく言われることは山に登るときに色々な登り口があって、最後には同じ頂上に達するのだからどんな宗教でもいい、みんなそれぞれ真理を求めて登って行ったら最後に真理に達するという。これを宗教多元論といいます。わたしはこれを正しいと思います。ただし、わたしはキリスト者としてキリストを宣言します。軸足はキリストの福音にあります。他者との交わりはしますけれども、まず自分の信仰を宣言することが先です。豊臣秀吉や徳川家康は排他的な宗教を絶対許さなかった。しかし残念ながら16世紀というのはトリエント公会議以降、プロテスタントに絶対に負けてはいけないというメンタリティの時代でしたから、行き過ぎがあったのも仕方のないことであったと思います。

質問6、高山右近や大友宗麟といったキリストン大名たちとコンフラリアとの関係はどのようなものだったのでしょうか。

回答 高山右近については把握しておりませんが、高山右近の父、高山飛驒守がキリストンの「組」と一緒に行き倒れの死者を埋葬して回ったという記録はあります。周囲の人はびっくりしたでしょうね。いつもは、差別されていたヒジリさんという人達がやっていた仕事を領主がやっているのです。それを見た領民はたまげたと思います。そのようにしてキリストン大名たちも非常に積極的に応援したのです。

質問7、殉教には死ぬ殉教と、死がない殉教があると聞いていますがどう思われますか。

回答 ローマ時代にそういう概念がありました。死ぬ殉教は血を流しますので赤い殉教（血の殉教）。白い殉教（血を流さない殉教）というのは、一生涯修道生活をした人です。苦行して神との一致を求めて隠遁した人たちを死なない殉教と言っていました。ローマ帝国がキリスト教を公認した後（313年以降）死ぬチャンスがなくなったので、みんなは砂漠に逃れました。これが修道者のはじめで、そこで死なない殉教というのが生まれました。

質問8、殉教者・列福・列聖など、カトリック側の一方的なものに終わってはいませんか。例えば講話の中では被差別者の話がありましたけれども、こういう人たちを忘れてはいませんか。

回答 お話をなかで申しあげましたように「触穢」という中世におこった概念は、はっきりと差別構造を決めていました。それに対しキリストンは、そういう日本の伝統を無視してヨーロッパの慈悲の業を行いました。ヨーロッパの慈悲の業の根柢はマタイ25章の最後の審判のことです。食っている人に食べ物を与え、渴いている人に水を与え、旅人に宿を貸した、それはわたし（イエス）にしてくれたことだという慈悲の業です。差別を受けた人たちを忘れてよいはずはないです。実は初期のキリストンの共同体には、特にハンセン病などで苦しんでいる人がたくさんおられました。その方たちをキリストンはお世話したのです。ある宣教師がインドから巡察に来たときに、日本の宣教はこのままであたら、貧しい人と病人の宗教と思われるから、もう少し方向転換をした方がよいと言った人がいました。しかし、わたしは本当の意味での福音の精神はそのときに表れていたと思います。一番弱い人たちの味方でした。そのあと領主を積極的に改宗させて領民が全部改宗するというシステムが生まれたのですが、それ以前の10年くらいはこのような正攻法でやっていました。わたしたちはその事を思い起こしたいと思います。

福音センター養成コース

祈り

いのちと愛の声を聴くために

自分を知り、
沈黙の中で祈り、
人とわかつあう…



参加をお待ちしています

- 日 時 08年11月26日(水)(午後2時) ~ 27日(木)(午後4時 予定)
- 指 導 トニー・プロドニアク師(メリノール宣教会)
Sr.菊池陽子(福音センター)
- 会 場 唐崎ノートルダム修道院(〒520-0106 大津市唐崎 1-3-1)
(電話番号 077-579-2884)
- 定 員 14名まで JR 湖西線(京都駅から 15分)唐崎駅下車 徒歩 15分
- 申し込み締め切り 11月22日(土)までに ● 参加費 11,000円

— お問い合わせ・申し込み先 —

郵便番号・住所・氏名・参加コース名をご記入の上、参加費 11,000円を
郵便振替口座 (00920-4-161844 カトリック福音センター養成コース)へ
お振込みください。

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル 京都カトリック福音センター
電話 075-229-6800 ファックス 075-256-0090 E-mail fukuin@kyoto.catholic.jp

でうすのこ奉公にすすむべきこと

「キリスト教共同体のあゆみとはたらき」

川村信三神父（イエズス会）



2008年5月24日におこなわれた
表記の講演会（「京都の大殉教」列福
記念特別委員会主催）の要約の後半
を掲載いたします。

コンフラリヤの日本移入

重い皮膚病の
人達の「病」、
そして死者の

「死」はすべて
穢れと言われま

た。触穢（しょくえ）という概念
があり、例えば死体に触れた人は
約1カ月公の活動が出来ないとい
う規定がありました。また、すで
に病気は治っていても当時の医療
技術では治らないように見えるた
め、病穢（びょうえ）という穢れ
をずっと負い続けた人々は差別
されました。また死体に触ると
穢れるということで、死者を埋葬
する人々も差別されました。同じ
ような話は聖書にも出でてきます。

サマリア人の話の中で、倒れていた旅人の横を司祭たちが通り過ぎ
ますが、それは倒れている人が死

んでいたからです。例えば司祭が今から何処かの儀式に行こうという時に、河原町の橋の上で誰か倒れているとします。そこで司祭が大丈夫ですかと起こした時に死んでいたとしたら、その司祭は行く先で儀式が出来なくなるわけです。ですから聖職者たちはそういうものを極力避けたのです。それを避けずに埋葬してあげられる人というのは穢れてもいい人たちだったのです。そこに差別があつたのですが、そういう仕事をキリスト達は嬉々としてやっていました。それを見た周りの人達は、この人達は一体何なのだろうか、何かあるに違いないと言いました。それが潜伏組織のような形になりました。それを天連追放令が出されると、公年伴天連追放令が出されると、公はカタカナ書きのコンフラリヤと

いうような慈善事業型として伝えられたヨーロッパ型信徒組織を、私はカタカナ書きのコンフラリヤと同様に教会活動が出来なくなり、各地の共同体は潜伏組織のような形に移行していきます。死者の埋葬や葬儀はできなくなり、今度は自分たちの家を中心と一緒に信心業、聖体贊美式、ロザリオをしていました。そこから潜伏共同体は始まります。司祭はほとんど来られました。近郊の村々から来た人々がその共同体を見て、村に帰って皆で「あのキリストの教えを信仰しよう」と言って、村で数十人が一度に洗礼を受けるというようなことが起り、共同体とのネットワークが出来ていきました。そしてそのネットワークを通じて、

今度は豊後のミゼリコルニア本部から各地の村々に、信徒代表である慈悲の役たちが祈りの指導や葬儀の手伝いに行くわけです。そうすると行き先の村でまた新しい信徒の共同体ができるのです。その人々も大分の共同体をまねて、司祭の指導を受けずに自分たちで共同体を作りました。こうして各地に共同体ができていきました。このような慈善事業として伝えられたヨーロッパ型信徒組織を、私はカタカナ書きのコンフラリヤと同様に教会活動が出来なくなり、各地の共同体は潜伏組織のような形に移行していきます。死者の埋葬や葬儀はできなくなり、今度は自分たちの家を中心と一緒に信心業、聖体贊美式、ロザリオをしていました。そこから潜伏共同体は始まります。司祭はほとんど来られました。近郊の村々から来た人々がその共同体を見て、村に帰って皆で「あのキリストの教えを信仰しよう」と言って、村で数十人が一度に洗礼を受けるというようなことが起り、共同体とのネットワークが出来ていきました。そしてそのネットワークを通じて、



共同体ができるシステムはすでに出来ていたのです。そしてこれをひらがな書きの「こんふらりや」とわたしは呼んでいます。世界中にコンフラリヤはありますが、日本のように潜伏共同体の核になるような働きをしたのは他に例がありません。

188殉教者の信徒のほとんど

は、このこんふらりやのリーダーです。天草の荒川アダムは少年のミゼリコルニアの代表であり、米沢のルイス甘粕右衛門はご聖体を中心にして集まっていた「こんふらりや」のリーダーでした。そのようなリーダー達が殉教者の筆頭に名を連ねているわけです。『マテウス・コロニス・ヨハネス・エズス会宣教師のマテウス・コロニスが集めた文書があります。江戸幕府の禁教令発令4年後の、1618年、フランシスコ会の人たちが、イエズス会は迫害が起る」と信徒を置き去りにして逃げたという噂を流しました。それに対

してイエズス会の宣教長だったマテウス・コロスは全国の各共同体に手紙を送り、イエズス会員達が信徒と共に生活し、逃げも隠れもせずに活動していることを証明して欲しいと、信徒の署名を集めたのです。その結果、全国約75カ所から約700人以上の署名が集まりました。それは全国の信徒代表リストであり、慈悲役など各地のリーダー達の名前がたくさんあります。その中には殉教者に重複している人もいます。現在ではこの文書は各地に「こんふらりや」があったという動かぬ証拠となっています。

ローマのドミニコ会カサナテンセ図書館に『さんたまりやの御組規則』という「こんふらりや」の規則が残っています。その中にはこんふらりやの退会、謹慎処分となる条項として次のような規則があります。

一、墮胎してはいけない。
二、離婚してはいけない。
三、子どもの同意を得ずに結婚相手を決めてはいけない。
四、教会で婚姻しなければならない。
五、奴隸売買をしてはいけない。
六、妾を持つてはいけない。

天草の切支丹資料館には『天草四郎陣中旗』が收められています。実はこれは反乱旗ではなく、ご聖体の組の旗です。先祖の信仰に立ち返りたいと思い、集まって一揆をおこそうとした人たちが共通のシンボルとして持ち出したのは、先祖たちが大事にしていた「こんふらりや」の旗でした。彼らはご聖体の前で静かに迫害を耐え忍ばうと集まつたのです。



天草四郎 阵中旗
(天草切支丹館所蔵)

七、高利貸しをしてはいけない。
八、酔っ払ってはいけない。

この「こんふらりや」は信仰共同体ですが、生活共同体でもあります。そして彼らはこのような規則を守りながら、共に暮らしていました。逆に言うと日本人の中でも奴隸売買に加担する人がいたということ、また日本の婚姻がどれほど西洋の婚姻と違っていたかということの証拠でもあります。

接続された歴史

このよろづや起源の信徒組織が、日本に非常に速やかに且つ深く浸透出来た一つの背景には、浄土真宗の「講」という組織の存在があります。私は「接続された歴史」といって、ヨーロッパの概念が日本に来て、日本で形になりました。逆に日本で形になれば、西洋の婚姻と違っていたかということの証拠でもあります。

世紀の組織作りがあります。が、やはりそのような日本的な世紀の組織作りがあります。それは、例えば浄土真宗の人達は自分たちの民家に祭壇を設けて集会を行っていましたが、そこでは毛坊主が信徒を指導していました。毛坊主とは、半分民間人、半分僧侶のような役割の民間指導者で、彼らが道場を経営し、そこに人々を集め、祈りの核を作っていました。まさにキリストianも同じことをしています。また信徒代表を惣代、毛坊主は看坊とも呼びますが、これらはすべて本願寺の言葉です。先のマテウス・コロス徵収文書の各名前横にも看坊○○、惣代○○、慈悲役○○と書いてあり、キリストianたちが信仰心をどのように守ろうとしたのかが見えます。

最初に申し上げた通り、司祭不在でほとんど秘跡が受けられない状況にもかかわらず、なぜこの共同体は秘跡に集中していったのでしょうか。ある宣教師はこのような報告をしています。「赦しの秘跡を大事にしている共同体が潜伏していました。秘跡を大事にしていた共同体が潜伏出来たし、殉教者を生んだ。」これは私たちが言葉で言うだけではない重い内容を含んでいます。秘跡とは100パーセント純粋な信仰行為であり、信仰無くして秘跡はありません。司祭がミサを行うと、それは秘跡としてイエスの記念としての体と血になるという信仰です。信仰しない人にとっては、何のこととかさっぱりわからない。むしろ無意味です。そこにもかかわらず私たちの信仰が守り続けている秘跡に集中できたり、やはり一番強さがあつた心に、やはり一番強さがあつた心に、やはり一度考えたいと思います。殉教、あるいは共同体は、信仰の行為です。そしてその信仰とは何かというと、私たちが信じ抜いてもいい、死んでもいいと思っている相手であり、私たちにとつては確かな存在です。この存在を抜きにしたら私たちは何もないのです。そういう思いで集まつた共同体こそ力があり、命をかけて証しが出来たということではないでしょうか。

ブルーノ神父



所属ペルー・
ユリマグアス
教区
生年 1958
叙階 1990

大学を卒業して管理技師になつた後、1990年にペルーで教区司祭になりました。最初の5年間はペルーの信徒宣教者会の担当者でした。1994年12月に日本に来て今年で14年になります。2年間は衣笠教会に住んで日本語を勉強しました。京都教区任命は、

1997年4月からで最初は彦根教会でした。現在は鈴鹿教会に住み、毎週、教区内の各教会で外国语のミサを捧げています。教区のラテンアメリカ人司牧を担当しています。司牧のポイントのひとつは、リーダーとなるカテキスタを養成することです。滞日者の相談も聞きますが、それは長い時間を必要とします。大好きな趣味は、温泉と運動で健康に留意して毎日を過ごしています。母国語はスペイン語ですが、ポルトガル語を忘れないように、ポルトガル語の本を読みニュースを聞きます。

一場修神父



所属マリスト
会
生年 1962
叙階 2001

ここにちは神父さん

ての営みは、ミサによって支えられミサから出てミサに帰つていきます。今の教会は、ミサ以外のことにあまりにも心をうばわれていないでしょうか。ミサが教会に一致と平和をもたらし、ミサが人をひきつけているようにならなければ、教会に未来はないと強く感じています。そして、このようなあたりまえのことを強調しなければならないことには強く危機感を感じています。

今司祭として強く感じていることは、ミサ（特に、主日ミサ）を大切にしなければならないということ、そして、ミサを大切にしている、ミサを支えにしている信徒をいちばん大切にしなければならないということです。教会のすべて

教会学校研修会

河原町教会 奥埜さと子

去る、8月30日（土）カトリック会館6階ホールにおいて、京都教区教会学校研修会が行われました。

教

会学校リーダー、および教会

学校の活動に関心のある60名が、

29小教区から参加しました。テー

マは「教会学校における初聖体の

重要性」で、お告げのマリア修道

会のシスター下窄優美先生が、長

崎の上五島から講師として来て下

さいました。シスター下窄は、現

在、カトリック新聞に「大人の教

会学校」～「カトリック教会の教

え」から学ぶ～を執筆しておられ

ますが、長年子どもの信仰教育に

もかかわってこられました。

シスターは、まず初聖体の意味

について、初聖体の歴史・初聖体

を受ける子どもとその家族・初聖

体と教会共同体の3つに分けてお

話しくださいました。つぎに、初

聖体準備のプログラム作成につい

てテキストの紹介もまじえてお話

しください、最後に教会学校にお

けるリーダーの養成についてお話

しくださいました。シスターは、



ご経験から、実例を挙げて具体的にお話しください、参加者からのたくさんの質問にも丁寧にこたえてくださいました。
質疑応答のあと、和やかで温かい雰囲気の中で、大塚司教様が参加者の要望や質問を聞いて、それによたえてください、励ましのお言葉と祝福をくださいました。
参加者はこの研修会で、子どもたちの初聖体について考えることに命を再認識すると同時に、ここで学び、分かち合つたことを糧にそれぞれの共同体で働く力をいただくことができました。

お
知
ら
せ

青年セントナーから

▼運営委員会(青年セントナー)
▼聖書の集い25日(土)

教区委員会から

◆聖書委員会▼よく分かる聖書の
学び29日(水)10時半 河原町会

館6階ホール▼聖書講座シリーズ
1・2日奥村豊師、15・16日北村
善朗師

◆列福記念事業特別委員会▼京都

の大殉教巡礼会25日(土)9時半
河原町教会、元和キリスト教地
碑などの巡礼、事前申込要FAX
075(822)23397

修道会から

◆京都女子カルメル会▼講演とミ
サ15日(水)13時半 京都女子カ
ルメル会修道院聖堂 講演「聖テ
レジア」講師・中川博道師

◆聖ドミニコ女子修道会▼ロザリ
オと共に祈る会17日(金)10時
半どなたでもどうぞ▼問合せ
075(231)2017

◆ノートルダム教育修道会▼来て
みなさい「自分の生きる道を祈り

ましょう」11日(土)~12日(日)
ノートルダム唐崎修道院 対象
独身女性 費用5000円 締
切30日 問合せ077(579)
2884

室5日(日) 13時半 河原町会館
6階ホール

◆京都キリストン研究会▼京都の大
殉教記念ミサ5日(日) 河原町教会
第2、第4、第5木曜日 河原町

◆カトリック奈良地区協議会▼聖
書講座10・11日畠基幸師、31日・
11月1日森田直樹師 奈良教会

◆衣笠教会▼5日(日)10時半
創立50周年ミサ ミサ後、敬老会

◆桂教会▼19日(日)14時 創立
50周年記念ミサ ミサ後、茶話会

◆京都南部東プロック▼ウォーカ
ソン11月3日(月)10時 河原町
教会から鴨川沿い往復

◆二金会▼例会10日(金)11時
西陣教会

◆糠みその会▼例会30日(木)19
時半 九条教会ホール

◆心のともしび 10月番組案内

▼テレビ(衛星・ケーブル放送)
スカイAスポーツプラス

毎週土曜日朝8時45分より

渡辺和子によるシリーズ。4日、
11日、18日、25日放送(但し18日
は7時45分からに時間変更)。

▼ラジオ(KBS京都ラジオ)
*10月のテーマ「成長」。

月~土 朝5時15分より5分間。
問合せ075(211)9341

◆「一万匹の蟻運動」基金報告
累計円52,938,931円

パウロの世界に学ぶ2
パウロ書簡を分類する

1 パウロが執筆した書簡
ローマ、1・2コリント、
ガラテヤ、フィリピ、1
テサロニケ、フィレモン

パウロの名前で執筆された
書簡 第二パウロ前期
2 テサロニケ、コロサイ、
エフェソ

パウロの名前で執筆された
書簡 第二パウロ後期
3 1・2テモテ、テトス

来年度年間予定

1月号に2009年の年間
予定を掲載します。締切11月
20日(木)までに、「教区時報
宛」と明記して、FAX075
(211)4345または、
henshu07@kyoto.catholic.jp

にお願いします。

なお、編集担当者が変わり
ましたので詳細な内容での連
絡をお願いします。

はつきり確定していない場
合でも、予定として掲載いた
します。

内容によってお問合せする必
要がある場合がありますので、
ご連絡者を明記して下さい。
本件は個別にはご依頼はい
たしませんのでよろしくお願
いします。

天主教司教の

10月のスケジュール

1日（水）	諸宗教対話部門会議14時（中央協時）
2日（木）	中央協議会
3日（金）	2008年度 特別臨時司教會議
4日（土）	濟州京都交流部会議14時
5日（日）	衣笠教会献堂50周年ミサ
6日（月）	教区評議会 議事局会
7日（火）	管区司教會議 議18時
8日（水）	教区評議会 議事局会
9日（木）	～10日（金）大阪教会
11日（土）	那須トライピスチン訪問
12日（日）	東京カトリック神学院
13日（月）	那須ガリラヤの家 訪問
14日（火）	中央協議会
15日（水）	中央協議会
16日（木）	中央協議会
17日（金）	桂教会創立50周年ミサ
18日（土）	（火）～28日（火）教区司祭年の黙想（函館トライピスチン修道院）
19日（日）	（日）桂教会創立50周年ミサ
20日（月）	（月）桂教会創立50周年ミサ
21日（火）	（火）～28日（火）教区司祭年の黙想（函館トライピスチン修道院）
22日（水）	（水）桂教会創立50周年ミサ
23日（木）	（木）桂教会創立50周年ミサ
24日（金）	（金）桂教会創立50周年ミサ
25日（土）	（土）桂教会創立50周年ミサ
26日（日）	（日）桂教会創立50周年ミサ
27日（月）	（月）桂教会創立50周年ミサ
28日（火）	（火）～28日（火）教区司祭年の黙想（函館トライピスチン修道院）
29日（水）	（水）桂教会創立50周年ミサ
30日（木）	（木）桂教会創立50周年ミサ
31日（金）	（金）中央協議会

お知らせ（司祭の異動）
村上透磨師
司教館気付

『ケアハウス神の園』入居者募集中です！

精華町の緑豊かな田園地帯に囲まれた高齢者福祉施設です。

60歳以上の方が対象で、現在自立して生活されているものの、体力の低下等のために日常生活に不安をお持ちの方に比較的低額な料金で入居していくだけの安らぎの施設です。全室個室、トイレ、ミニキッチンを完備、高齢者の方が安心して健やかに生活していただけるよう、生活相談をはじめ、栄養士の献立による食事、毎日のお風呂等のサービスを提供しています。また季節の行楽や趣味の教室等、リフレッシュのための各種催しも行っています。見学も随時お受けしておりますので、お気軽にお連絡ください。問合せ先 0777-4129 井上迄

青年の集い～聴いてよ！

司教様！！～報告

桂教会

鈴木 和人

和人

」

下谷イリオントホールにて青年の集いが行われました。京都教区の5地区のみならず、愛知、兵庫、遠くはフランスからの参加者を交え、総勢23名の青年が集いました。

今回の企画は、青年センターの公式ホームページにある「Forum（分かち合い掲示板）」上で、今まで分かち合わされたテーマの中から3つのテーマを取り上げ、グループに分かれて分かち合いをしました。

テーマは、「自分の居場所」、「いいストレスの発散方法ありますか?」、「自分にとって仕事って?」の三つです。参加者は、それぞれの社会的立場や年齢で持つ悩みや葛藤を話したり、言葉の本來の意味を考えながらおしゃべり、それぞれのグループで和気あいあいと、自由に分かち合いが進められていました。

毎年冬の主日に合わせて青年の為のカテchesse集会が行われましたが、今回は趣旨を変えて、テーマにもある通り、青年が今どんなことを考えていました。司教様に聞いてもらう内容にしました。その意図に理解を示して下さり、司

教様は終始メモをとったり相槌をうつたりと、傾聴することに徹して下さいました。その後のミサの中で、全体に対して総評をいただきました。

最後は全員でひとつ輪をつくり、一本締めて幕を下ろしたのでした。

今回の企画に限らず、最近は、分かち合いというものを見直す機会がよくあります。「分かち合う事」、それは討論ではなく、ひとつの答えを導き出すために分かち合いをする会議でもない。今、自分の感じていること、持っている知識、不安、緊張、悩みなどでも、自分ではない誰かと共有する。とても難しいことですが、とても大切なことだと感じます。これから先も、青年がたくさんのことを見分かち合っていけたらと思います。

【青年センターホームページ】
<http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

※青年センターからのお知らせやジョバニの記事の他、「forum（分かち合い掲示板）」などもご覧いただけます。

※携帯電話からもご覧いただけます。